



外国文献紹介

大腿骨頸部の疲労骨折—病態の進行を示唆する MRI 所見上の危険因子について

Steele CE et al : Femoral neck stress fractures : MRI risk factors for progression. J Bone Joint Surg Am 100 : 1496-1502, 2018

筆者らは、骨折線の存在する大腿骨頸部の疲労骨折の症例および明らかな骨折線のみられない症例の計 305 例について後ろ向き調査を行い、MRI の所見について検討した。初回の MRI 撮影時に骨折線と浮腫が認められた症例は 166 例、浮腫のみがみられた症例は 139 例であった。初回の撮影から平均約 6 週後に 2 回目の撮影が行われたが、194 例中 27 例で骨折の悪化が認められ、手術が施行された。手術する必要性が生じた症例の 85.2% では、初回の MRI で股関節部に液体貯留がみられた。そして、大腿骨頸部の疲労骨折で、骨折線が存在し、初回スクリーニングの MRI で股関節部に液体貯留がみられる場合には、骨折が悪化するリスクがあるため、早急の手術を検討する必要があると述べている。

瀬戸一彦